InfoCage® / モバイル防御

MobileProtect

モバイルプロテクト

インストールガイド

日本電気株式会社, NEC システムテクノロジー株式会社

目　　次

第1章 はじめに

　このたびは、MobileProtect をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
　MobileProtect は、パソコンからの情報漏洩を防止するため、認証を受けていない人がそのパソコンを使うことを防止したり、データを暗号化して読めないようにしたりすることができる製品です。
本製品には、メディア鍵で認証する「メディア鍵認証方式の MobileProtect」とパスワードで認証する「パスワード認証方式の MobileProtect」があります。

※ 「メディア鍵認証方式の MobileProtect」と「パスワード認証方式の MobileProtect」の併用はできません。必ずどちらか一方のみをインストールしてください。

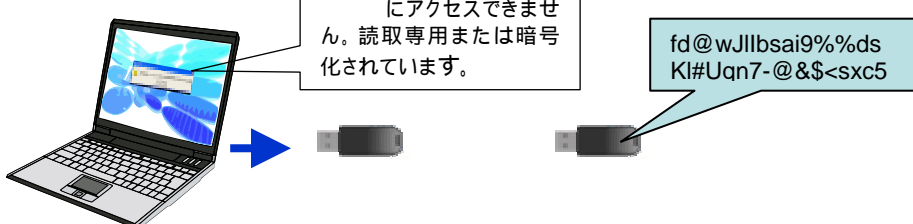
　本製品で情報漏洩を防止するためには、インストール時にパソコンを使用する人を認証する「鍵」の作成または、「パスワード」の設定を行い、その後、保護が必要なファイルの暗号化を行う必要があります。
本インストールガイドに従ってそれぞれ設定を行ってください。

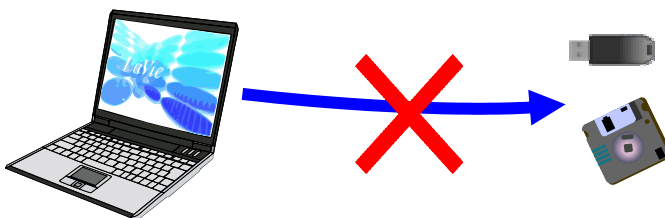
◆ 「MobileProtect メディア鍵認証方式」版の特長

■パソコンのロック

鍵を設定したリムーバブルメディア等を脱着することで、パソコンのロックやロック解除が可能です。

※パソコンのロック機能のみでは情報漏洩対策は万全ではありません。重要なファイルは必ず暗号化してください。

■ ファイルの暗号化

ドライブ、フォルダ単位でデータの暗号化を行い、鍵となるリムーバブルメディアが装着された場合のみファイルアクセスが可能になります。
パソコン内のデータだけでなく、リムーバブルメディア内のデータも暗号化できます。

■データの抜き取り防止

認証されていないリムーバブルメディアへのコピーを禁止して、情報の抜き取りを防止します。

◆ 「MobileProtect パスワード認証方式」版の特長

◆ スタンドアローンモードとネットワークモード

本製品には、クライアントコンピュータ単体で運用するスタンドアローンモードと、 MobileProtect 管理サーバがクライアントコンピュータの設定などを管理するネットワークモードがあります。
インストール時に運用方法を選択する必要がありますので、MobileProtect の管理者に確認後インストールを実施してください。

- 「メディア鍵認証方式」版のインストールについては、P.4をご覧ください。
- 「パスワード認証方式」版のインストールについては、P.35をご覧ください。

≪ 著作権について ≫

第2章「メディア鍵認証方式」版のインストール

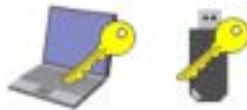
2.1　「メディア鍵認証方式」版で使用する鍵について

- 「鍵」とは

　例えば鍵がなければドアが開かないのと同様に、パソコンやリムーバブルメディア内の情報を保護するための「鍵」を他のメディアに作成し、「鍵」となるメディアがなければ情報にアクセスできないようにするものです。

- 「鍵」の種類

MobileProtect で作成する「鍵」には以下の 3 種類があります。

・　「鍵」
パソコン内のデータを保護するための「パソコン用の鍵」と、リムーバブルメディア内のデータを保護するための「リムーバブルメディア用の鍵」があります。「パソコン用の鍵」はリムーバブルメディアやネットワークの共有フォルダに、また「リムーバブルメディア用の鍵」はパソコンや他のリムーバブルメディア、ネットワークの共有フォルダに作成できます。

・　「合成鍵」
異なるメディアに作成した鍵を 2 つ組み合わせて使用するダブルロックキーのことです。
（玄関のドアにドアノブ鍵とチェーンを付けることと同じです）
組み合わせることができるのは 2 つまでです。
鍵が 2 つそろわなければパソコンやリムーバブルメディアの保護を解除できません。

・　「合鍵」
スペアキーのことです。 同じ役割の鍵が、メディアごとに最大3つまで作成できます。
そのうちどれか 1 つで、パソコンやリムーバブルメディアの保護と解除ができます。

- 「鍵情報」とは

　各メディアに作成した「鍵」のバックアップデータを「鍵情報」といい、「鍵」となるメディアとは別のリムーバブルメディアに保存しておきます。
　「鍵」を保存したリムーバブルメディア（またはメディア内のデータ）を紛失した場合は、「鍵情報」を元に復旧します。
　「鍵情報」を紛失すると「鍵」の復旧ができませんので、「鍵情報」を保存したリムーバブルメディア（またはメディア内のデータ）を絶対に紛失しないように注意してください。

2.2　インストールの前にお読みください

● **お願い**

- インストールする前に、P.7の「導入前の注意確認事項」チェックシートを使用して、インストール環境の確認を行ってください。
- インストールする前にMobileProtectを使用する環境をチェックしてください。MobileProtectが格納されているメディア（例　CD-ROM）内のMPEnvChk.EXEを実行してください。（CD-ROMからコピーして使用する場合は、MPEnvChk.EXEとfldrlist.iniを同じフォルダにコピーする必要があります）。問題が見つかった場合は、すべて対処してください。
- 万が一に備え、大切なデータはバックアップを取ってから使用してください。

● **サポート対象オペレーティングシステム**

- Windows　XP　Professional（日本語版）　/　Home Edition（日本語版）
- Windows　2000　Professional（日本語版）

● **ご準備いただくもの**

インストールにはリムーバブルメディアが2個必要です。

使用にあたっては、鍵を格納するリムーバブルメディア(*1)と、鍵情報を格納するためのリムーバブルメディア(*2)が必要ですので、インストールする前に準備しておいてください。

※鍵を格納したリムーバブルメディアには、鍵情報は格納できませんので、ご注意願います。

*1：ＵＳＢメモリ、フラッシュメモリカード、モバイルディスクの他、サーバの共有フォルダが使用できます。
（推奨：ＵＳＢメモリ）
*2：フロッピーディスク、ＵＳＢメモリ、フラッシュメモリカード、モバイルディスクが使用できます。
ただし、別売の「MobileProtect 管理サーバ」と連携して動作するネットワークモードで使用する場合は、鍵情報はサーバに保存されますので、鍵情報を格納するメディアは必要ありません。

● **注意事項**

1.　**インストール**

- 他の暗号化ソフトと併用すると、正しく動作しない場合があります。
  ※InfoCage®/ファイル暗号とは併用が可能であることを確認しています。
- NTFS ファイルシステムの暗号化、または圧縮されたファイルは MobileProtect では暗号化できないため、NTFS ファイルシステムの暗号化、または圧縮している場合は、MobileProtect をインストールする前に解除してください。
- Norton SystemWorks（Norton　Utilities）の Norton Protection（ごみ箱機能）は使用できません。使用している場合は MobileProtect をインストールする前に解除してください。
  ＜解除方法＞
  1.デスクトップの「Norton ごみ箱」のアイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックしてください。
  2.[Norton Protection]タブを選択してください。
  3.プルダウンメニュー[ドライブ]で、ドライブを選択し、[保護を有効にする]チェックを外してください。
  ※必ず全ドライブ無効にしてください。
  4.[OK]をクリックしてください。
- SUBST コマンドを使用して仮想ドライブを割り当てている場合、MobileProtect をインストールする前に解除してださい。
- Windows　XP に MobileProtect をインストールすると、OS 標準のバックアップ機能が使用できなくなります。
  バックアップをおこなう場合は、MobileProtect　のインストールフォルダ（通常は　¥Program Files¥MobileProtect　）内の　¥tools¥MPBackup.exe　を使用してバックアップをおこなってください。操作方法については、同じフォルダ内の　バックアップツール.pdf　を参照してください。
- MobileProtect をインストールすると、OS 標準の「システムの復元」が使用できなくなります。

- Windows XP に MobileProtect をインストールすると、ユーザ選択画面が表示されなくなり、「簡易ユーザ切り替え」ができなくなります。
  また、シャットダウン時の画面が「コンピュータの電源を切る」(ボタン選択)画面から、「Windows のシャットダウン」(プルダウンメニュー選択)画面に変更されます。
- MobileProtect をインストールすると「Windows へようこそ」画面が通常のログオン画面に変更されます。※Windows の設定によっては、「Windows へようこそ」画面は表示されません。
- MobileProtect インストール後は、コントロールパネル等からユーザのログオンやログオフの方法を変更することができなくなります。セキュリティ強化のため、「Ctrl+Alt+Del」キーを押下する画面を表示するように設定を変更する場合は、MobileProtect インストール前に設定変更してください。
- アドミニストレータ権限のあるユーザでインストールを行ってください。
  MobileProtect ユーティリティの操作もコンピュータの管理者(アドミニストレータ権限)で行ってください。また、Windows XP の「別のユーザとして実行」機能は使用しないでください。
- プロダクト ID はユーザ証書に記載されています。
- インストール時に入力するスーパーバイザパスワードは、MobileProtect ユーティリティ起動時、鍵の復旧時、アンインストール時に必要になりますので、絶対に忘れないように注意してください。
- MobileProtect を正常にインストールした後に、同じバージョンの setup.exe を実行するとアンインストールのウィザードが起動しますのでご注意ください。

2. 暗号化について

- NTFS ファイルシステムの場合、暗号化するファイルとフォルダは、SYSTEM アカウントの変更権限が必要です。
- NTFS ファイルシステムの暗号化または圧縮されたファイルは暗号化できません。
- 暗号化指定したフォルダを共有設定しないでください。

3. 鍵情報の保存

- 鍵情報は、鍵を作成したメディアには保存できません。(スタンドアローン運用時のみ)

4. 鍵について

- MobileProtect で保護されたパソコンを使用する際には、必ず鍵を作成したメディアを装着した状態で使用してください。
  鍵を装着しない状態で使用した場合は、データが不正になる場合があります。
  また、鍵を装着していない場合、ごみ箱へのファイル削除が拒否されます。

※その他の注意事項については、MobileProtect オンラインマニュアルを参照してください。

MobileProtect

【導入前の注意確認事項】チェックシート

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

項番	確　認　事　項	チェック欄
1	重要なデータは、念のためバックアップを取ること。	
2	合鍵用のメディア、あるいはサーバを用意すること。	
3	充分な空き容量が各ドライブにあること。 ※暗号化を実行する際、テンポラリ（一時作業スペース）として以下の空き容量がドライブ毎に必要になります。 必要な空き容量 ＝ 暗号化対象ファイルの中で最大のファイルと同等の容量 ＋ （ドライブ容量×0.02） （上記は最低限必要な容量です。暗号化処理は、十分な空き容量がある状態で行ってください。） ※ただし、初めて暗号化処理を行う場合は全てのドライブのごみ箱を暗号化するため、暗号化指定していないドライブにも上記の空き容量が必要となりますのでご注意ください。	
4	フォルダ名やファイル名に日本語、または英語以外の文字列を使用している場合は、日本語、または英語に変更すること。	
5	共存不可のアプリケーションの確認・対策を行うこと（次ページ「アプリケーション競合問題について」を参照。	
6	暗号化するフォルダやファイルに SYSTEM 変更権限があることを確認すること。	
7	Program Files やアプリケーションのインストールフォルダ以下にあるデータファイルを暗号化する際には、データの保存先を、Program Files またはアプリケーションのインストールフォルダ以外のフォルダへ移動すること。	
8	デュアルブートマシンでないこと。	
9	鍵情報一括管理をする場合、クライアントマシンのログイン ID、およびパスワードが、一括管理サーバのログイン ID,およびパスワードと同じであり、かつ、書き込みが許可されていること。	
10	SUBST コマンドを使用していないこと。	
11	システムドライブの Program Files にインストールしていないアプリケーションはスタートメニューに登録済みであること。	

※このシートをコピーして使用してください。

アプリケーション競合問題について

　次のアプリケーションソフトは、MobileProtect と同時に利用、または MobileProtect がインストールされた環境で利用すると、問題が発生することがあります。
これらのアプリケーションソフトは MobileProtect をインストールする前にアンインストールしておいてください。アンインストールできない場合は使用しないでください。

MobileProtect と共存できないアプリケーション

- 他のファイル暗号化ソフト、独自のログオン認証を行うソフト
- 仮想マシン環境構築ソフト（VMware、VirtualPC など）
- データバックアップ、リカバリソフト（StandbyDisk、FINALDATA など）
- 一部のディスクイメージ（HDD バックアップ）作成ソフト（V2i Protector など）
- Trek 社サムドライブ Touch G3/ティアック株式会社 Swipe FINGERPRINT USB メモリ、NEC 製ノートパソコン内蔵の指紋センサ以外を使用する指紋認証システム
- 一部のライティングソフト（Windows　XP 標準 CD 書き込み機能、DirectCD、B'sCLiP など）

また、次のアプリケーションソフトを使用する場合は、設定を変更してください。

・Norton SystemWorks（Norton　Utilities）

＜設定変更内容＞
Norton Protection（Norton ごみ箱）機能を使用しないように設定する。

※設定を変更しない場合、ファイルの暗号化や復号に失敗する可能性があります。

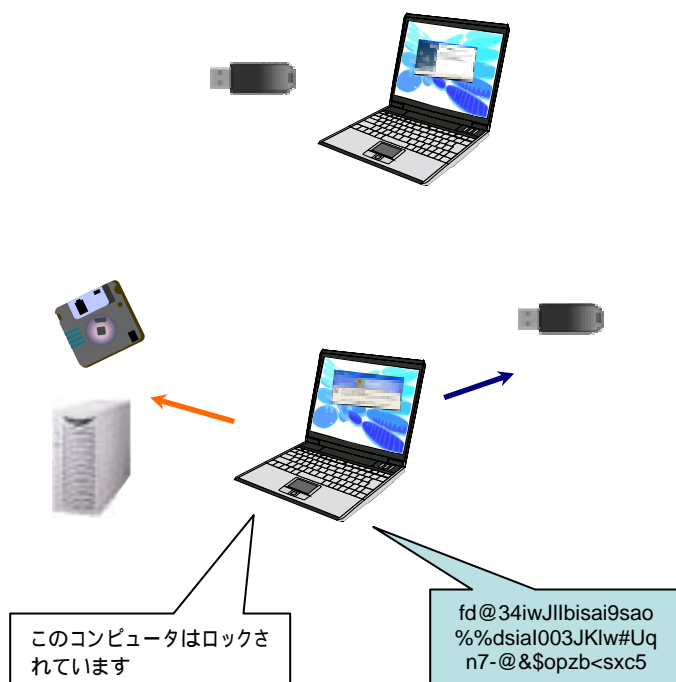
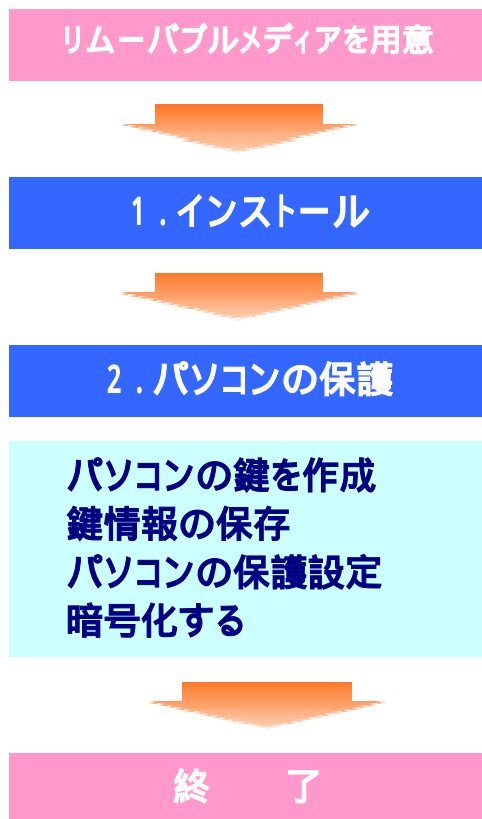
2.3　導入の流れ

リムーバブルメディアを用意

1．インストール

2．パソコンの保護

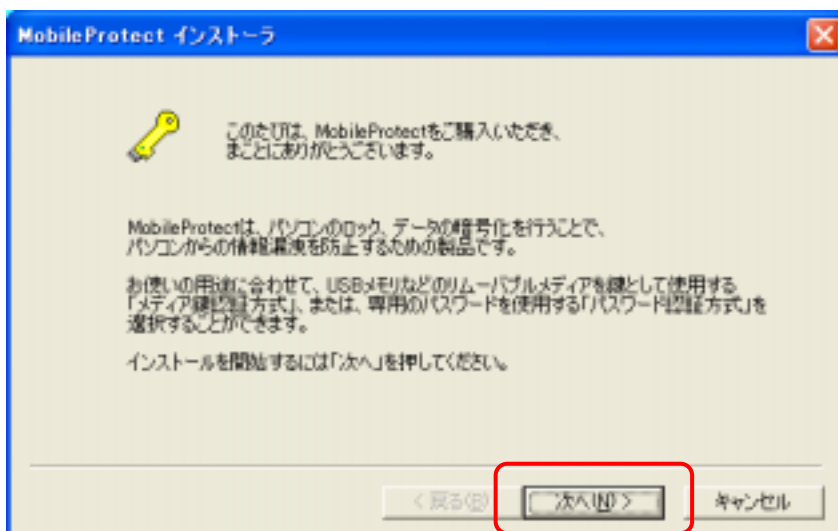
①パソコンの鍵を作成
②鍵情報の保存
③パソコンの保護設定
④暗号化する

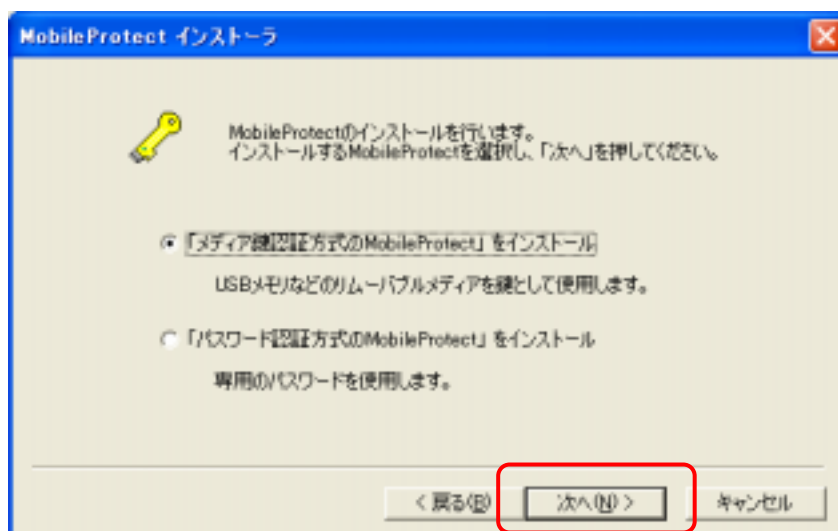
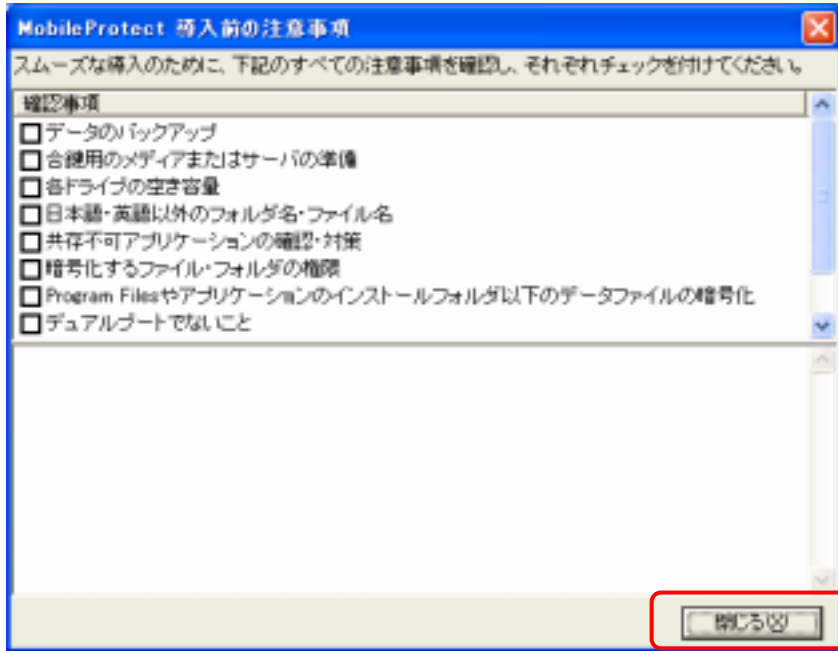
終　　了

2.4　導入の操作手順

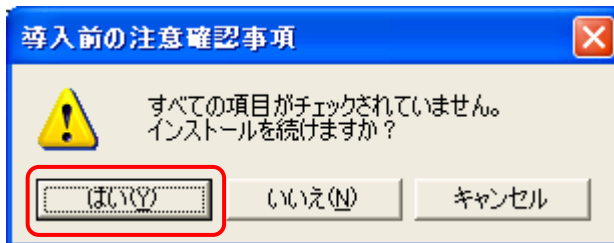
2.4.1　インストール方法

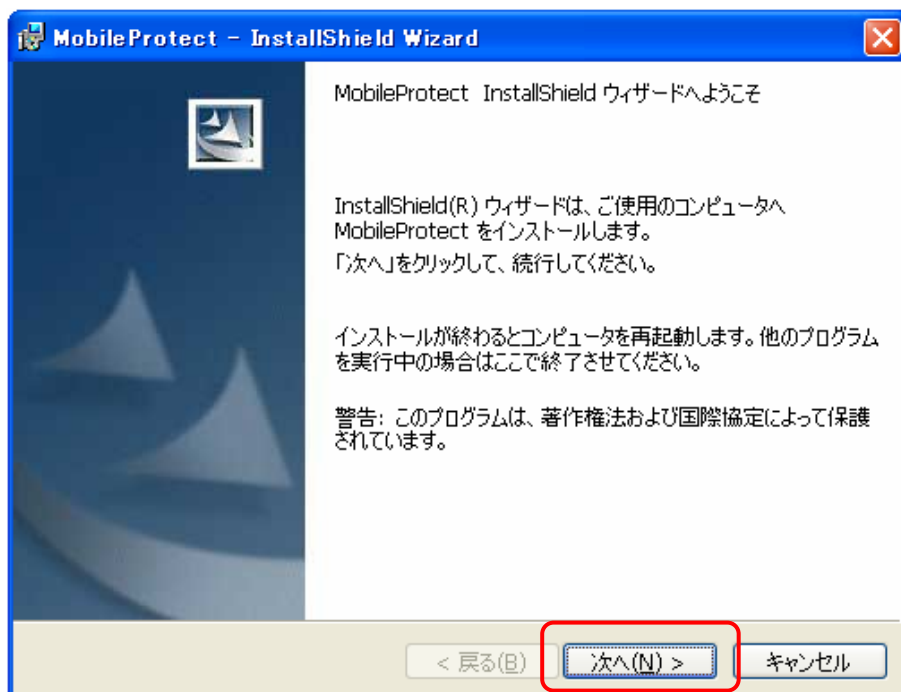
注意

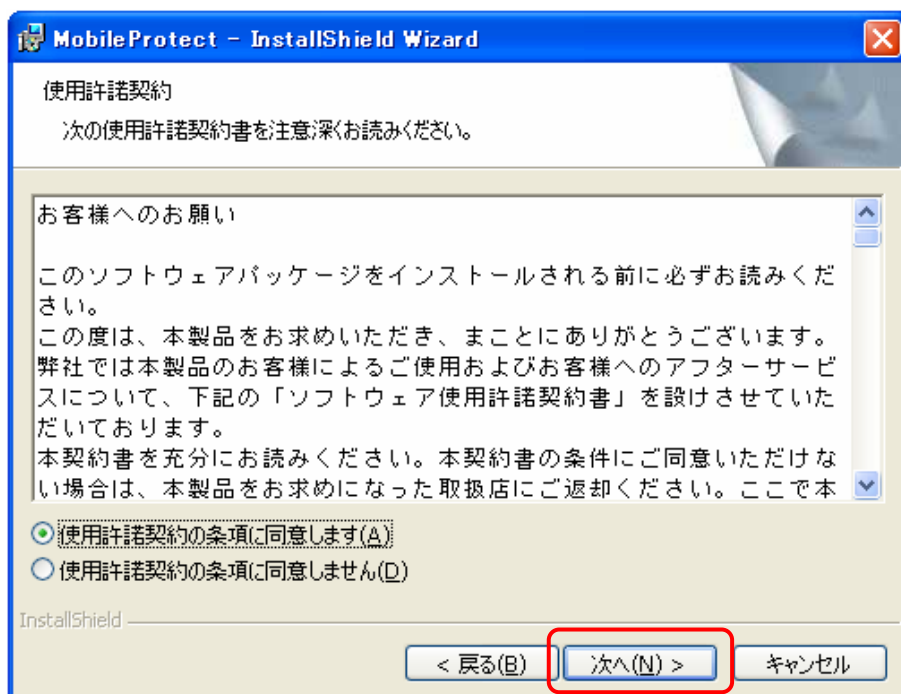
インストールする前にMobileProtectを使用する環境をチェックしてください。MobileProtectが格納されているメディア（例　CD-ROM）内の\環境チェックUTL\MPEnvChk.EXEを実行してください。（CD-ROMからコピーして使用する場合は、MPEnvChk.EXEとfldrlist.iniを同じフォルダにコピーする必要があります）。問題が見つかった場合は、すべて対処してください。
画面内の「対処方法」をクリックすると、対処方法が表示されます。

⑴　MobileProtect **が格納されているメディア（例**　CD-ROM）**内の** setup.exe **を実行してください。**

「次へ」をクリックしてください。

⑵　**『「メディア鍵認証方式の** MobileProtect」**をインストール』　を選択し、「次へ」をクリックしてください。アップグレードの場合、「アップグレードインストールを行います」と表示されます。「次へ」をクリックしてください。**

⑶ 「MobileProtect 導入前の注意事項」 画面が表示されます。各項目をクリックすると詳細な説明が表示されますので、必ずお読みの上、チェックを付けてください。
すべての確認が終わりましたら、「閉じる」をクリックしてください。

⑷ すべての項目がチェックされていない場合は、下記のメッセージが表示されます。

インストールを続ける場合は「はい」を、インストールを中止する場合は「いいえ」を、(3)の画面に戻る場合は「キャンセル」をクリックしてください。

(5)　「次へ」をクリックしてください。

※　アップグレードの場合は、(8) へ。

(6)　使用許諾契約をすべてお読みいただき、同意する場合は「使用許諾契約の条項に同意します」をクリックしてください。
「使用許諾契約の条項に同意しません」を選択した場合はインストールできません。

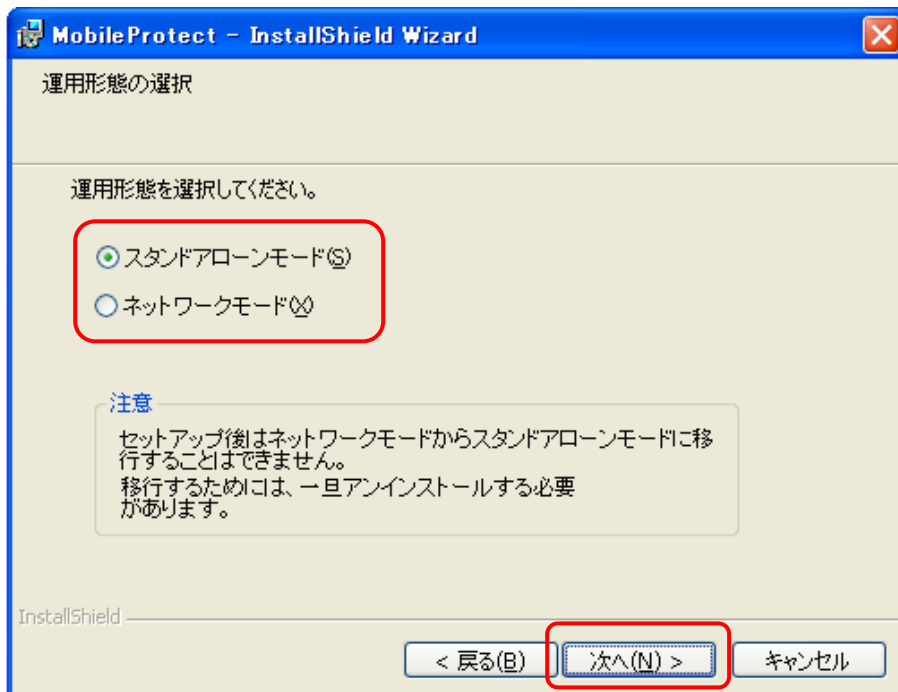
※　アップグレードの場合、この画面は表示されません。

(7) **ユーザ情報を入力します。**
ユーザ名、会社名、プロダクトID、スーパーバイザパスワードを入力します。
(確認のため、スーパーバイザパスワードは2回入力してください。)
すべての入力が終わりましたら、「次へ」をクリックしてください

※ **アップグレードの場合、この画面は表示されません。**

※ **ユーザ名、会社名は半角 40 文字以内、または全角 20 文字以内で入力してください。**
※ **プロダクト ID はユーザ証書に記載されているものを半角文字で入力してください(大文字小文字は区別しません)。**
※ **スーパーバイザパスワードは 8 桁以上 64 桁以内の半角文字を指定してください(大文字小文字を区別します)。**
※ **スーパーバイザパスワードとは MobileProtect ユーティリティを起動するためのパスワードです。起動時の他、鍵の復旧時、アンインストール時に必要になりますので、忘れないよう注意してください。**

⑻ 「運用形態の選択」 画面で、運用形態の選択をします。

※ 別売の MobileProtect 管理サーバが導入されていない環境では、スタンドアローンモードを選択してください。MobileProtect 管理サーバが導入されている環境では、MobileProtect 管理者に問い合わせて「運用形態」を選択してください。

※ 管理者によって運用形態が設定されている場合は、この画面は表示されません。

※ スタンドアローンモードを選択した場合は (10) へ。

(9)　≪ネットワークモード≫を選択した場合、「クライアント認証」画面が表示されるので、クライアント ID、MobileProtect サーバの URL を入力して、「次へ」をクリックしてください。

※　スタンドアローンモードの場合、この画面は表示されません。

※　管理者によって運用形態が設定されている場合は、この画面は表示されません。

※　認証に失敗をした場合は、クライアント名、クライアント ID、MobileProtect サーバの URL を確認後、管理者に問い合わせてください。

※　管理者がクライアント登録をしていない場合は認証されません。

(10) **インストール先のフォルダ選択画面で MobileProtect のインストールフォルダを選択します。**
通常はそのまま「次へ」をクリックしてください。
「次へ」をクリックすると、セットアップを開始します。

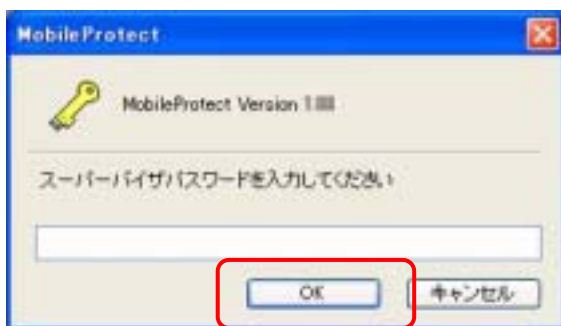
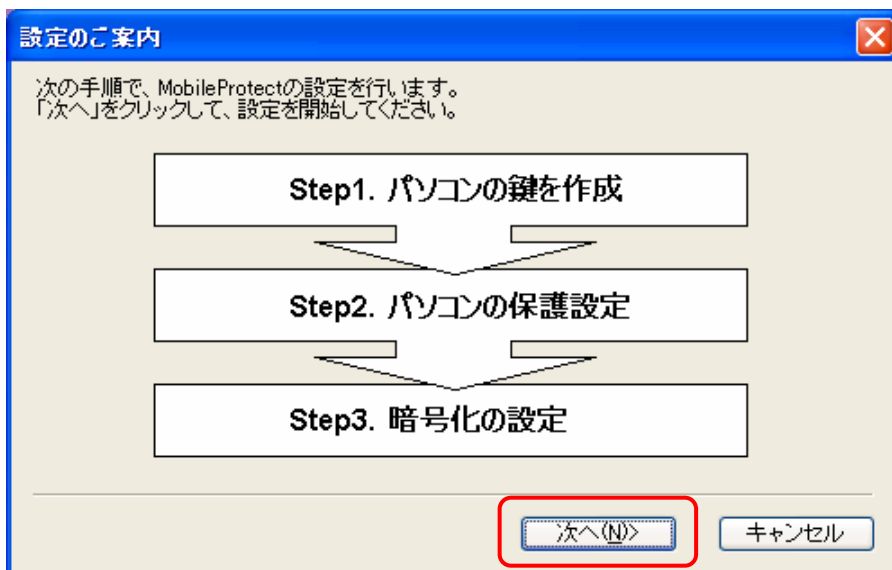
(11) **「インストール」をクリックしてインストールを開始してください。**

⑿ **インストールが完了すると下記の画面が表示されます。**

「完了」をクリックしてください。

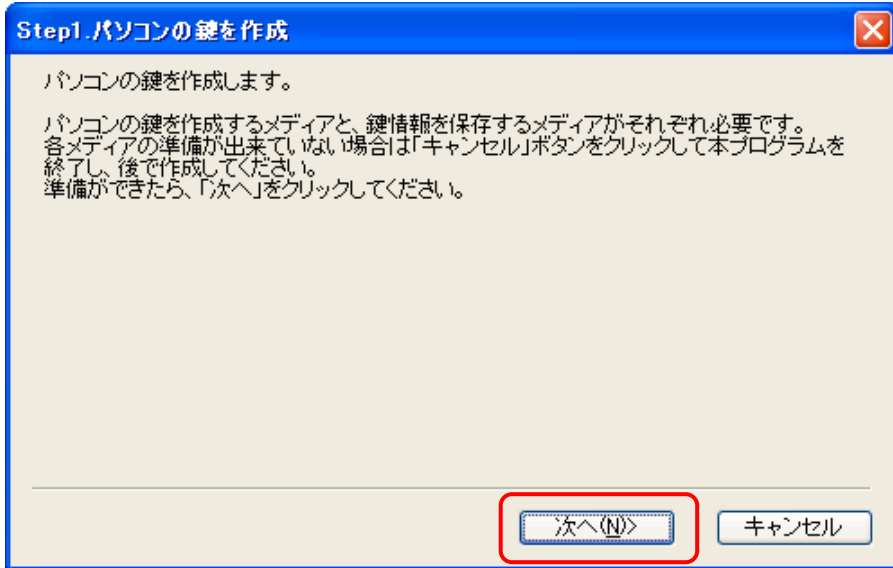
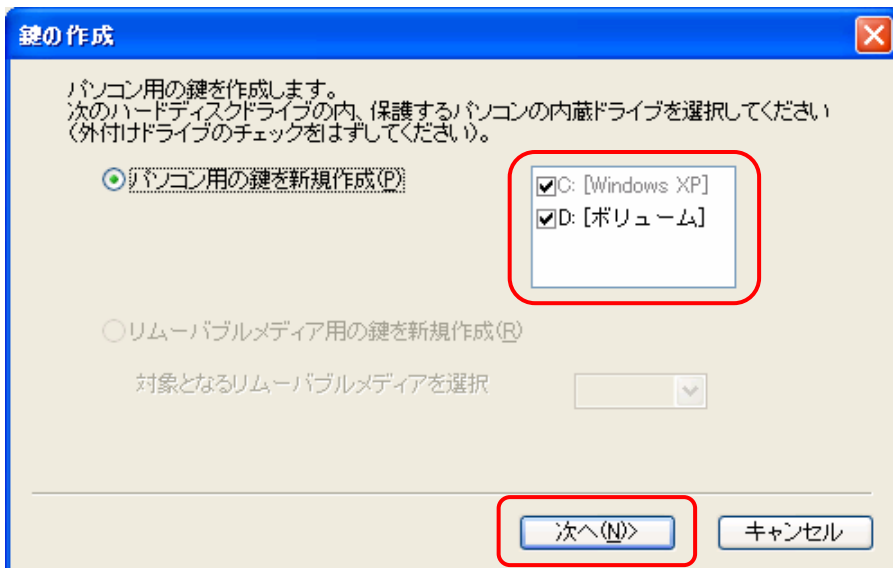
⒀ MobileProtect **を使用可能にするためには、パソコンを再起動する必要があります。他のプログラムを実行中の場合は、終了させてください。**
「OK」**をクリックすると、パソコンが再起動します。**

2.4.2　パソコンの保護

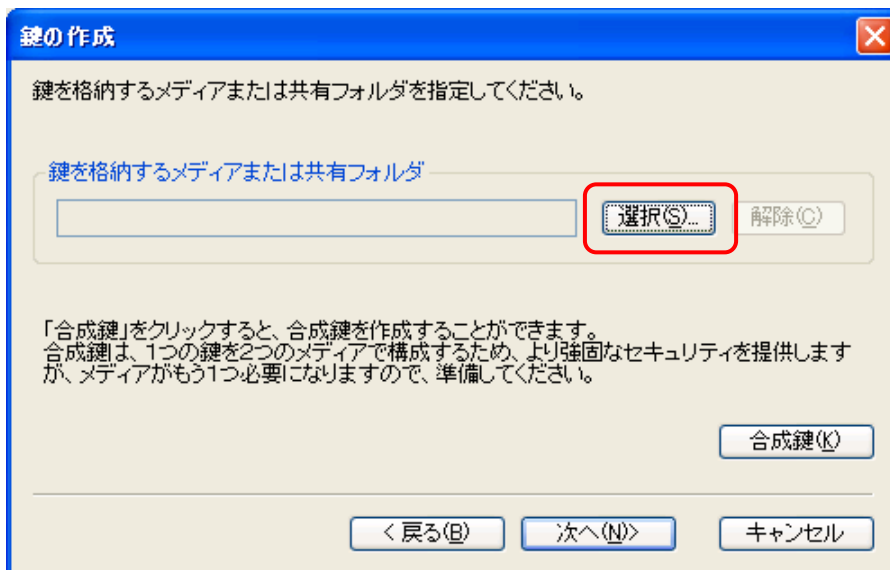
⑴　再起動後に、スーパーバイザパスワード入力画面が表示されます。インストール時に設定したスーパーバイザパスワードを入力し、「OK」をクリックしてください。

⑵　設定のご案内が表示されます。「次へ」をクリックしてください。

※「キャンセル」をクリックすると、本プログラムが終了します。
　その場合は、後でパソコンの鍵を作成してください。

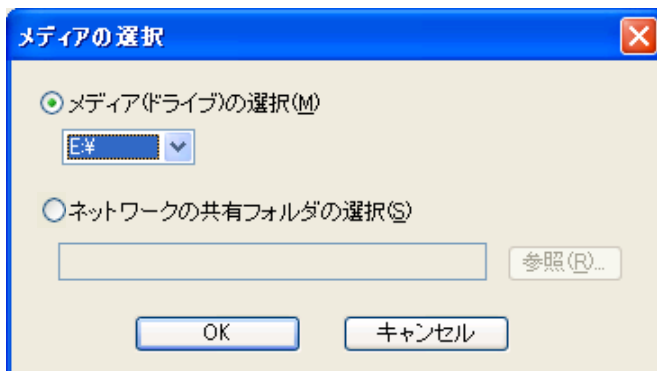
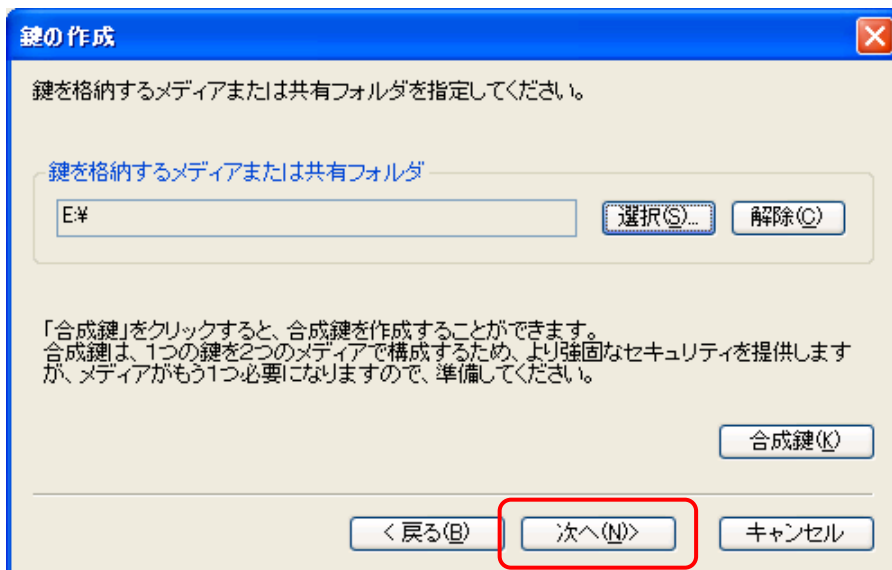
2.4.2.1　パソコンの鍵を作成

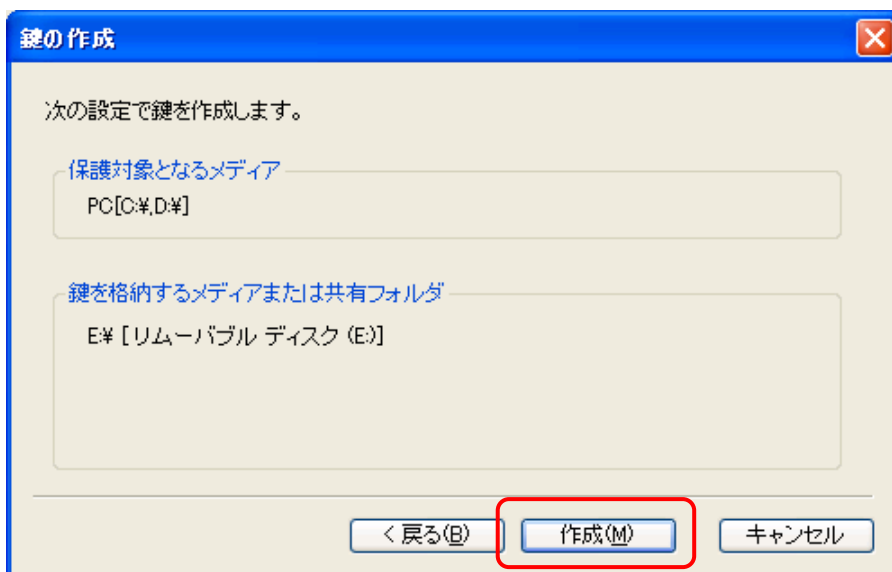
ここでは、パソコンの内蔵ハードディスクの鍵をリムーバブルメディアに作成する手順を説明します。

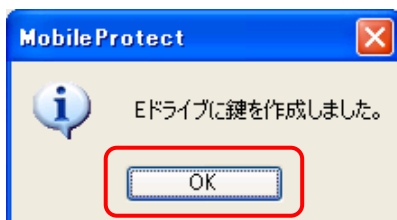
⑴ パソコンの鍵の作成に関する説明が表示されます。必ずお読みの上、準備ができましたら、「次へ」をクリックしてください。

⑵ 「パソコン用の鍵を新規作成」が選択されています。ドライブ一覧に、内蔵ハードディスク以外のドライブが表示されている場合はチェックをはずしてください。

※ 内蔵ハードディスクは必ずチェックしてください。また、内蔵ハードディスクではないドライブのチェックは必ずはずしてください。内蔵ハードディスクではないドライブにチェックをつけると、そのドライブを取り外した際に動作が不正になる場合があります。

鍵を作成するメディアを装着し、「次へ」をクリックしてください。

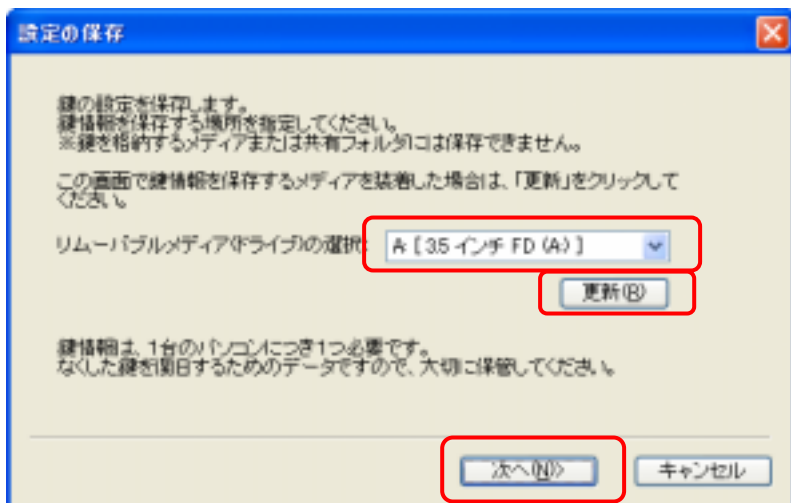
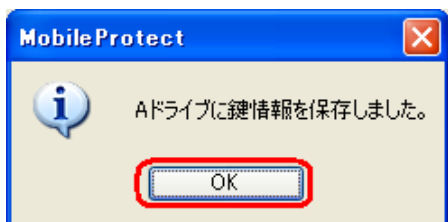
⑶　「鍵を格納するメディアまたは共有フォルダ」の「選択」をクリックしてください。
(以下では一つの鍵を作成する方法を説明します)

※合成鍵を作成する場合は、MobileProtect オンラインマニュアルの「4-3-5　合成鍵を作成する」を参照してください。

⑷　「メディア(ドライブ)の選択」をクリックして選択し、ドライブ一覧から鍵を作成するメディアのドライブを選択してください。(ここでは例として E ドライブとします)
ドライブ指定後、「OK」をクリックしてください。

⑸ **「次へ」をクリックしてください。**

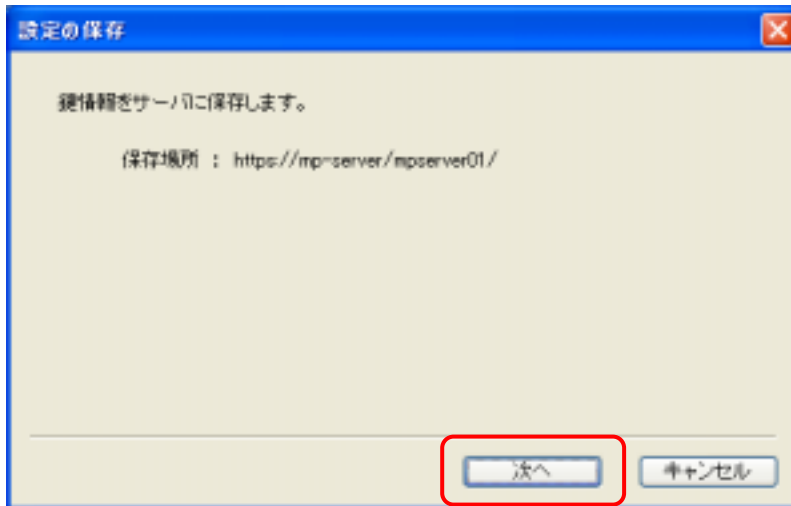
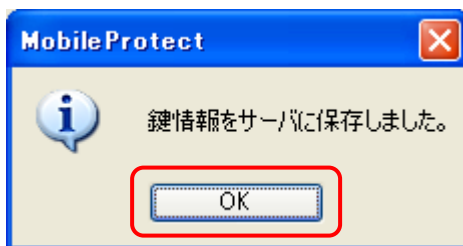
⑹ **作成内容を確認後、「作成」をクリックしてください。**

⑺ **鍵の作成が完了しました。「OK」をクリックしてください。**

2.4.2.2　　　鍵情報の保存

■　**スタンドアローンモードの場合**

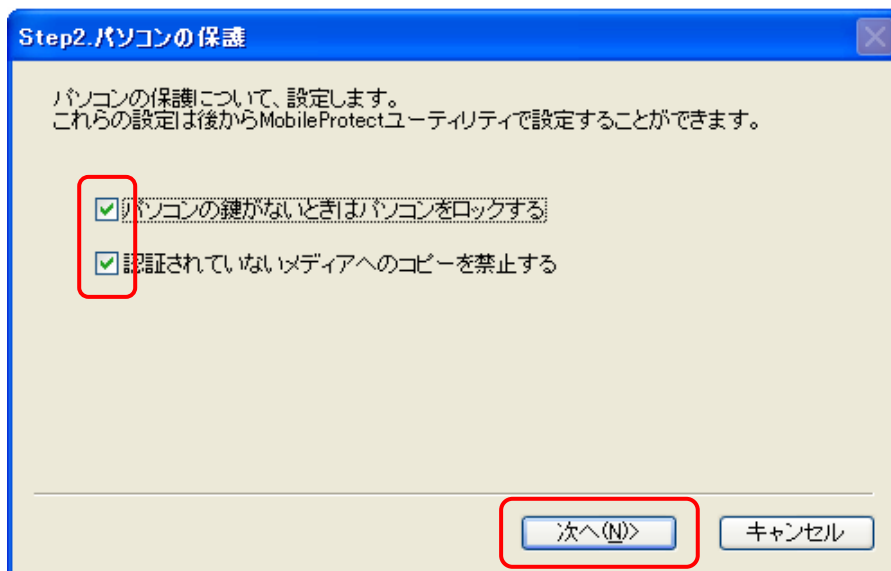
(1)　**鍵情報を保存するリムーバブルメディアを装着してください。**
リムーバブルメディア（ドライブ）一覧に鍵情報を保存するメディアが見つからない場合は、「更新」をクリックしてください。

鍵情報の保存先メディアを選択し、「次へ」をクリックしてください。（ここでは例としてフロッピーディスクに保存します）

(2)　**フロッピーディスク（A ドライブ）に鍵情報の保存が完了しました。「OK」をクリックしてください。**

■　ネットワークモードの場合

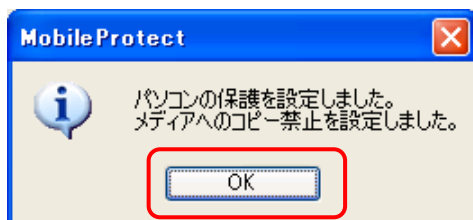
⑴　設定の保存画面で、鍵情報をサーバに保存します。

保存場所を確認して、「次へ」をクリックしてください。

⑵　鍵情報をサーバに保存が終了したら、「OK」をクリックしてください。

2.4.2.3　　パソコンの保護設定

鍵となるメディアを脱着することで、パソコンのロックやロック解除することができます。
また、認証されていないメディアへの書き込みを禁止することができます。
ここでは、パソコンをロックするための設定方法、および認証されていないメディアへのコピーを禁止する設定方法を説明します。

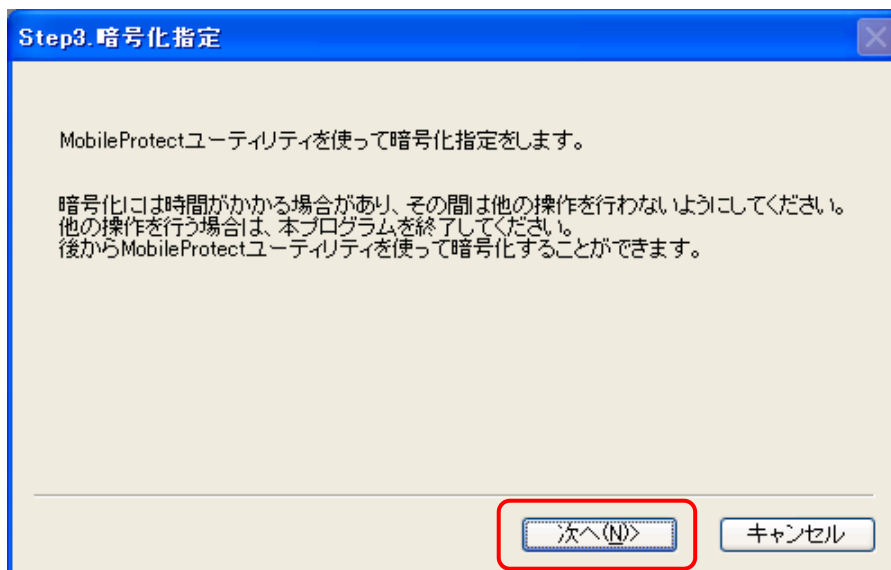
(1) パソコンの保護に関する設定画面が表示されます。
あらかじめ「パソコンの鍵がないときはパソコンをロックする」にチェックが入っています。
「認証されていないメディアへのコピーを禁止する」のチェックを入れてください。

※通常は「パソコンの鍵がないときはパソコンをロックする」のチェックを入れて使用してください。このチェックを外す場合は、MobileProtect オンラインマニュアル「4-2-1　パソコンをロックする」を参照してください。

「次へ」をクリックしてください。

(2) 「OK」をクリックしてください。
「OK」をクリックすると、パソコンをロックする設定が有効になります。
これ以降、認証されていないメディアへのコピーを禁止します。
また、鍵を抜くと、パソコンをロックします。
鍵を装着するとロックが解除され、ログオンすることができます。

※　パソコンのロックについては、「2.4.2.5　パソコンのロックとロック解除についての動作例」を参照してください。

2.4.2.4　　暗号化設定

フォルダまたはドライブ単位でファイルを暗号化します。
ここではCドライブの¥Project1 フォルダを暗号化する例を説明します。

(1) **暗号化指定に関する説明が表示されます。**
必ずお読みの上、準備ができましたら、「次へ」をクリックしてください。

⑵　「暗号化指定」タブが表示されます。「追加」をクリックしてください。

※　**以下のフォルダを暗号化する場合は、「暗号化を推奨するフォルダ」内のチェックボックスにチェックを入れてください。**

・デスクトップ　　・マイドキュメント　　・インターネット一時ファイル

※　**デスクトップを暗号化指定すると、デスクトップのアイコンが表示されなくなる場合がありますが、暗号化処理が終了すると　元に戻ります。また、アイコンの並びが変更される場合がありますが、その場合は手動で並び替えてください。**

MobileProtect **管理サーバが導入されている環境で、**MobileProtect **管理者によって暗号化するドライブやフォルダがあらかじめ設定されている場合は、そのドライブやフォルダが「暗号化を指定しているフォルダ」に表示されています。**

他に暗号化設定するドライブやフォルダがない場合は、(4)**へ。**

⑶　**暗号化したいフォルダを選択し、「OK」をクリックしてください。**

⑷　**「暗号化を指定しているフォルダ」に選択したフォルダが追加されます。**
複数のフォルダを指定したい場合は、⑵～⑶を繰り返してください。

※　**すでに暗号化したドライブやフォルダがある場合、そのドライブやフォルダ名も表示されていますが、「解除」すると、復号されるためご注意ください。**

※ 暗号化を実行する前に、常駐プログラムを含むすべてのアプリケーションを終了させてください。アプリケーションが使用しているファイルは、暗号化できない場合があります。
※ 「適用」をクリックすると、暗号化処理が終了するまで暗号化指定しているフォルダにはアクセスできなくなります。（「一時停止」をクリックしても同様です）

全て指定し終わったら「適用」をクリックしてください。

※ ここで「終了」をクリックすると、指定したフォルダの暗号化を実行後に、MobileProtect ユーティリティが終了します。
再度、MobileProtect ユーティリティを起動する場合は「第4章．ユーティリティの起動及び、オンラインマニュアルの参照方法」を参照してください。

(5) 暗号化処理に関する注意事項が表示されます。必ずお読みの上、「はい」をクリックしてください。

※ 暗号化を実行する前に、常駐プログラムを含むすべてのアプリケーションを終了させてください。アプリケーションが使用しているファイルは、暗号化できない場合があります。

(6) ごみ箱の暗号化に関する注意事項が表示されます。必ずお読みの上、「OK」をクリックしてください。

⑺　「開始」をクリックすると、暗号化処理が始まります。

※　暗号化するフォルダ内のファイル数が多い場合、暗号化に時間がかかる場合があります。

⑻　暗号化処理中です。しばらくお待ちください。

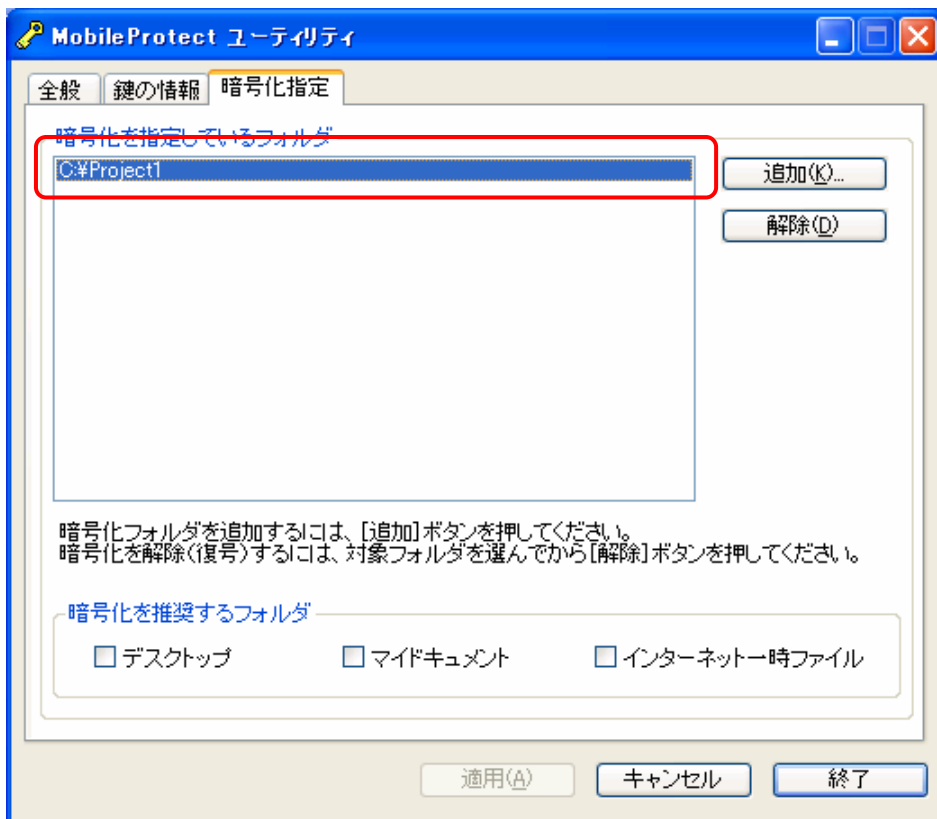
⑼　**暗号化処理が終了しました。**
暗号化できなかったファイルがある場合はウィンドウ内に表示されます

※　**暗号化できなかったファイルがあった場合は、起動しているアプリケーションがあれば終了し、「再試行」をクリックしてください。**
すべての起動中のアプリケーションを終了して「再試行」をクリックしても暗号化できなかったファイルがある場合、そのファイルはオペレーティングシステムのサービス等で優先的に使用されているため、暗号化できません。
これらのファイルは MobileProtect 内で暗号化できなかったファイルとして登録されるため、暗号化対象フォルダ内にあっても、問題はありません。

「終了」をクリックしてください。

※　**暗号化対象外ファイルについては、暗号化できなかったファイルの一覧には表示されません。また、暗号化対象フォルダ内の全てのファイルが暗号化対象外ファイルであった場合は、「処理したファイルはありませんでした」と表示されます。**

※　**暗号化対象外ファイルについては、MobileProtect オンラインマニュアル「4-4　暗号化指定タブ」を参照してください。**

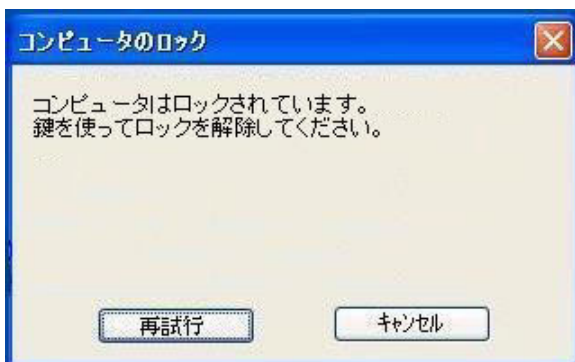
(10) **「暗号化を指定しているフォルダ」に暗号化されたフォルダが表示されます。**
これで暗号化の作業は終了です。

※ **リムーバブルメディアを保護する場合は、オンラインマニュアル「4-3-2 リムーバブルメディアの鍵を作成する」を参照してください。**

2.4.2.5　パソコンのロックとロック解除についての動作例

（画面イメージは Windows XP　Professional のものです。）

■　起動しているパソコンから鍵を抜いた場合

鍵（を作成したメディア）を抜くと、「コンピュータのロック」画面が表示され、パソコンがロックされた状態になります。

※Windows の設定によっては、この「コンピュータのロック」画面は表示されない場合があります。

鍵（を作成したメディア）を装着してない場合にログオンしようとすると、「コンピュータはロックされています。
鍵を使ってロックを解除してください。」 と表示され、ログオンできません。

コンピュータのロックの解除

このコンピュータはロックされています。

Group1¥User1 (User1) または管理者のみがこのコンピュータのロックを解除できます。

ユーザー名(U): User1

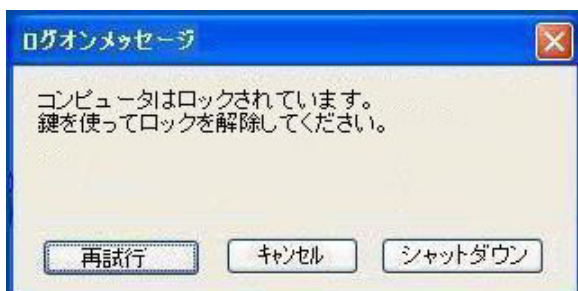
パスワード(P):

OK　キャンセル　オプション(O) >>

鍵（を作成したメディア）を装着して「再試行」をクリックすると、「コンピュータのロックの解除」画面が表示され、パスワードを入力するとロックが解除され、ログオンすることができます。

■鍵を抜いたままパソコンを起動した場合

パソコンを起動すると「Windows へようこそ」画面が表示されます。

※Windows の設定によっては、「Windows　へようこそ」画面は表示されずに「ログオンメッセージ」画面が表示されます。

鍵（を作成したメディア）を装着してない場合にログオンしようとしても、「コンピュータはロックされています。鍵を使ってロックを解除してください。」と表示され、ログオンできません。

鍵（を作成したメディア）を装着して「再試行」をクリックすると、「Windows へログオン」画面が表示され、パスワードを入力するとロックが解除され、ログオンすることができます。

第3章「パスワード認証方式」版のインストール

3.1　インストールの前にお読みください

- **お願い**
  - インストールする前に、P.37の「導入前の注意確認事項」チェックシートを使用して、インストール環境の確認を行ってください。
  - インストールする前に MobileProtect を使用する環境をチェックしてください。MobileProtect が格納されているメディア（例 CD-ROM）内の MPEnvChk.EXE を実行してください。（CD-ROM からコピーして使用する場合は、MPEnvChk.EXE と fldrlist.ini を同じフォルダにコピーする必要があります）。問題が見つかった場合は、すべて対処してください。
  - 万が一に備え、大切なデータはバックアップを取ってから使用してください。
- **サポート対象オペレーティングシステム**
  - Windows XP Professional（日本語版） / Home Edition（日本語版）
  - Windows 2000 Professional（日本語版）
- **注意事項**

1. インストール

- 他の暗号化ソフトと併用すると、正しく動作しない場合があります。
  ※InfoCage®/ファイル暗号とは併用が可能であることを確認しています。
- NTFS ファイルシステムの暗号化、または圧縮されたファイルは MobileProtect では暗号化できません。NTFS ファイルシステムの暗号化、または圧縮している場合は、MobileProtect をインストールする前に解除してください。
- Norton SystemWorks（Norton Utilities）の Norton Protection（ごみ箱機能）は使用できません。使用している場合は MobileProtect をインストールする前に解除してください。
  ＜解除方法＞
  1.デスクトップの「Norton ごみ箱」のアイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックしてください。
  2.[Norton Protection]タブを選択してください。
  3.プルダウンメニュー[ドライブ]で、ドライブを選択し、[保護を有効にする]チェックを外してください。
  ※必ず全ドライブ無効にしてください
  4.[OK]をクリックしてください。
- SUBST コマンドを使用して仮想ドライブを割り当てている場合、MobileProtect をインストールする前に解除してださい。
- Windows XP に MobileProtect をインストールすると、OS 標準のバックアップ機能が使用できなくなります。
  バックアップをおこなう場合は、MobileProtect のインストールフォルダ（通常は ¥Program Files¥MobileProtect ）内の ¥tools¥MPBackup.exe を使用してバックアップをおこなってください。操作方法については、同じフォルダ内の バックアップツール.pdf を参照してください。
- MobileProtect をインストールすると、OS 標準の「システムの復元」が使用できなくなります。
- Windows XP に MobileProtect をインストールすると、ユーザ選択画面が表示されなくなり、「簡易ユーザ切り替え」ができなくなります。
  また、シャットダウン時の画面が「コンピュータの電源を切る」（ボタン選択）画面から、「Windows のシャットダウン」（プルダウンメニュー選択）画面に変更されます。
- MobileProtect をインストールすると「Windows へようこそ」画面が通常のログオン画面に変更されます。※Windows の設定によっては、「Windows へようこそ」画面は表示されません。
- MobileProtect インストール後は、コントロールパネル等からユーザのログオンやログオフの方法を変更することができなくなります。セキュリティ強化のため、「Ctrl+Alt+Del」を押下する画面を表示するように設定を変更する場合は、MobileProtect インストール前に設定変更してください。
- アドミニストレータ権限のあるユーザでインストールを行ってください。
  MobileProtect ユーティリティの操作もコンピュータの管理者（アドミニストレータ権限）で行ってください。また、Windows XP の「別のユーザとして実行」機能は使用しないでください。

- プロダクト ID はユーザ証書に記載されています。
- インストール時に入力するユーザパスワードは、Windows ログオン時に必要になりますので、絶対に忘れないように注意してください。
- MobileProtect を正常にインストールした後に、同じバージョンの setup.exe を実行するとアンインストールのウィザードが起動しますのでご注意ください。

2. 暗号化について

- NTFS ファイルシステムの場合、暗号化するファイルとフォルダは、SYSTEM アカウントの変更権限が必要です。
- NTFS ファイルシステムの暗号化または圧縮されたファイルは暗号化できません。
- 暗号化指定したフォルダを共有設定しないでください。
- インストール時、デフォルトの暗号化フォルダがある場合は暗号化が終了するまでユーティリティを終了できません。

※　その他の注意事項については、MobileProtect オンラインマニュアルを参照してください。

MobileProtect

【導入前の注意確認事項】チェックシート

氏名

項番	確　認　事　項	チェック欄
1	重要なデータは、念のためバックアップを取ること。	
2	充分な空き容量が各ドライブにあること。 ※暗号化を実行する際、テンポラリ（一時作業スペース）として以下の空き容量がドライブ毎に必要になります。 必要な空き容量 ＝ 暗号化対象ファイルの中で最大のファイルと同等の容量 ＋ （ドライブ容量×0.02） （上記は最低限必要な容量です。暗号化処理は、十分な空き容量がある状態で行ってください。） ※ただし、初めて暗号化処理を行う場合は全てのドライブのごみ箱を暗号化するため、暗号化指定していないドライブにも上記の空き容量が必要となりますのでご注意ください。	
3	フォルダ名やファイル名に日本語、または英語以外の文字列を使用している場合は、日本語、または英語に変更すること。	
4	共存不可のアプリケーションの確認・対策を行うこと（次ページ「アプリケーション競合問題について」を参照。	
5	暗号化するフォルダやファイルに SYSTEM 変更権限があることを確認すること。	
6	Program Files やアプリケーションのインストールフォルダ以下にあるデータファイルを暗号化する際には、データの保存先を、Program Files またはアプリケーションのインストールフォルダ以外のフォルダへ移動すること。	
7	デュアルブートマシンでないこと。	
8	SUBST コマンドを使用していないこと。	
9	システムドライブの Program Files にインストールしていないアプリケーションはスタートメニューに登録済みであること。	

※このシートをコピーして使用してください。

アプリケーション競合問題について

次のアプリケーションソフトは、MobileProtect と同時に利用、または MobileProtect がインストールされた環境で利用すると、問題が発生することがあります。
これらのアプリケーションソフトは MobileProtect をインストールする前にアンインストールしておいてください。アンインストールできない場合は使用しないでください。

MobileProtect と共存できないアプリケーション

- 他のファイル暗号化ソフト、独自のログオン認証を行うソフト
- 仮想マシン環境構築ソフト（VMware、VirtualPC など）
- データバックアップ、リカバリソフト（StandbyDisk、FINALDATA など）
- 一部のディスクイメージ（HDD バックアップ）作成ソフト（V2i Protector など）
- 一部のライティングソフト（Windows XP 標準 CD 書き込み機能、DirectCD、B'sCLiP など）
- NEC 製ノートパソコン内蔵の指紋センサ以外を使用する指紋認証システム

また、次のアプリケーションソフトを使用する場合は、設定を変更してください。

・Norton SystemWorks（Norton Utilities）

＜設定変更内容＞

Norton Protection（Norton ごみ箱）機能を使用しないように設定する。

※設定を変更しない場合、ファイルの暗号化や復号に失敗する可能性があります。

3.2　導入の流れ

MobileProtect の導入は、以下の手順で行います。

1. インストール

MobileProtect をパソコンに登録します。
※インストールの最後にパソコンを再起動します。再起動後、MobileProtect ユーティリティが自動起動されます。

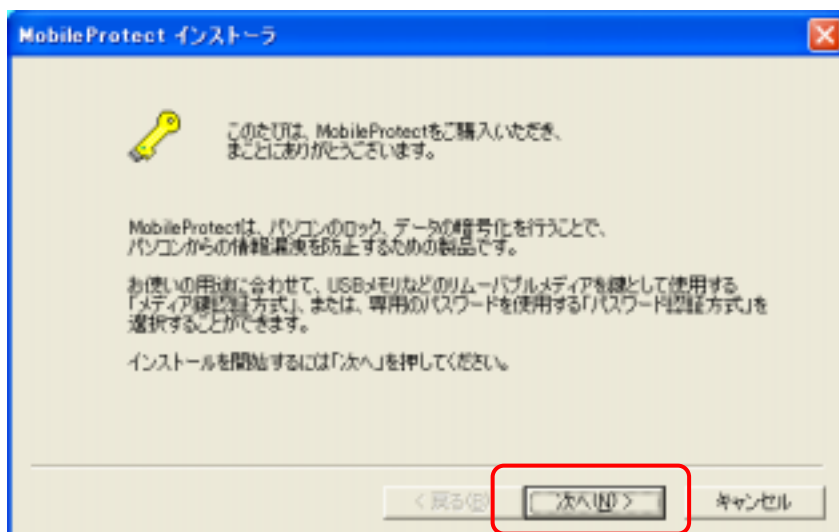
2. 暗号化の設定

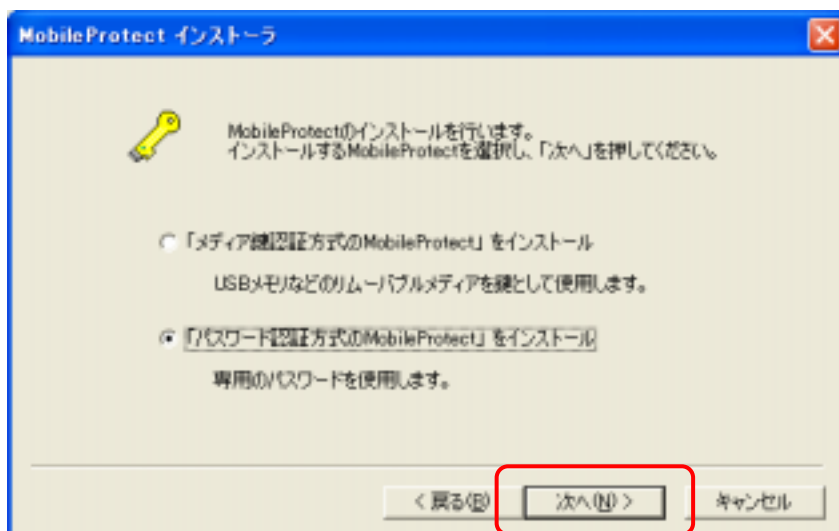
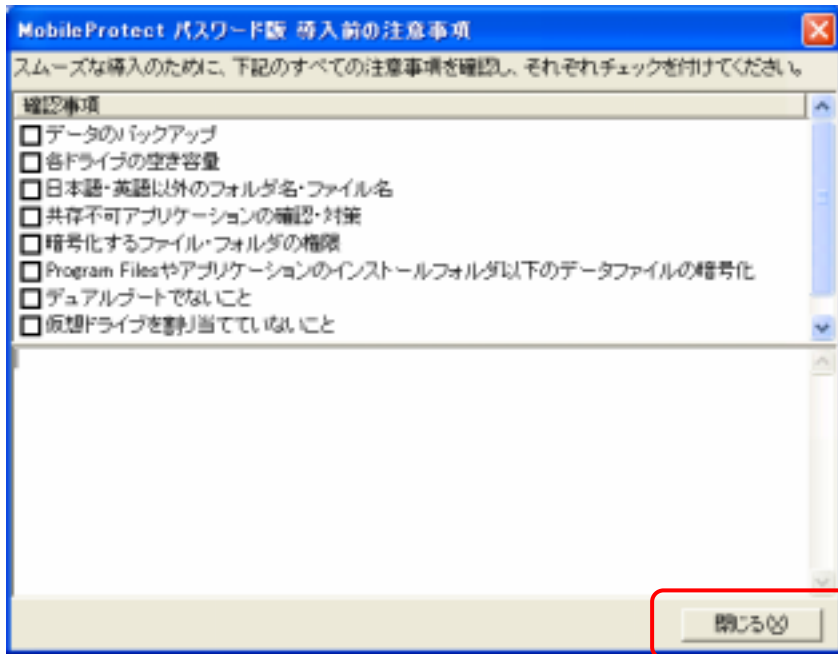
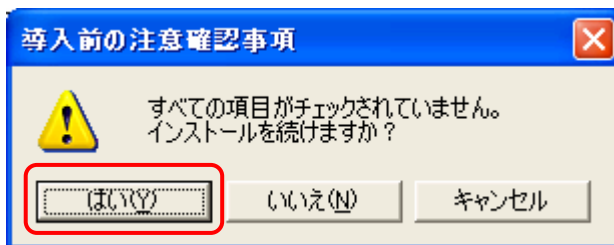
終　了

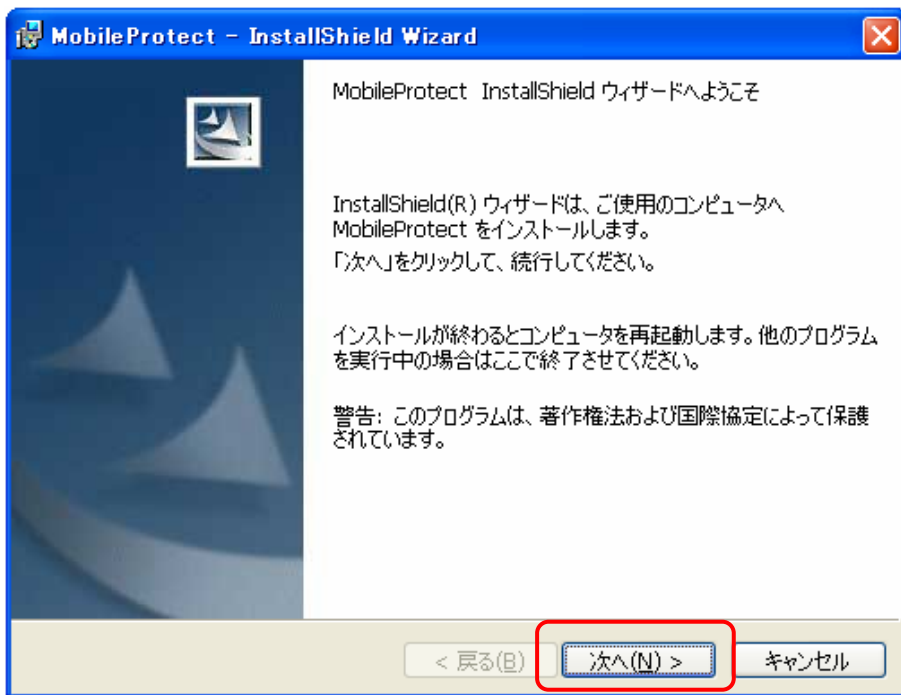
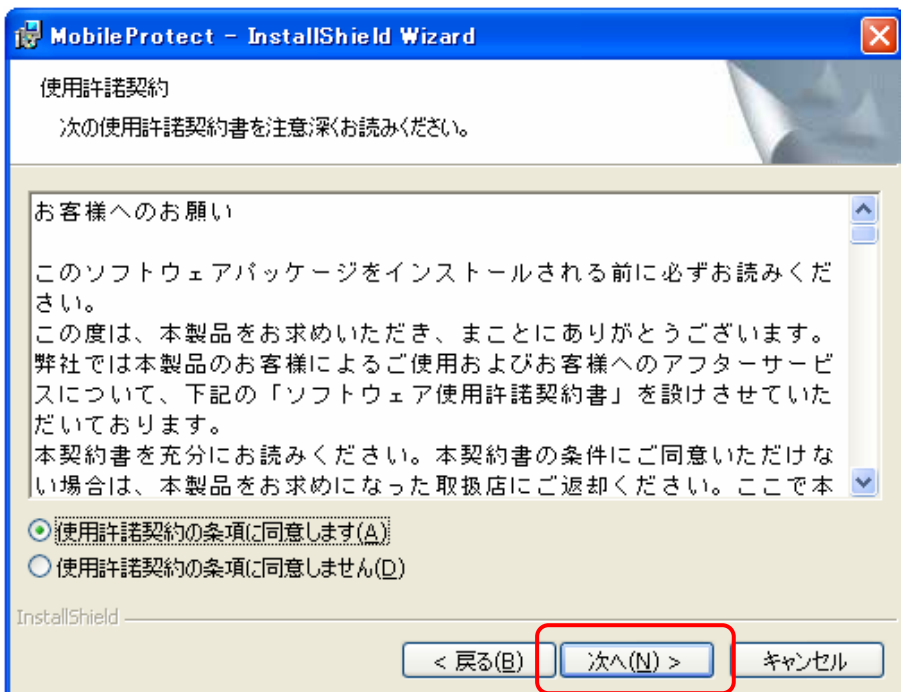
3.3. 導入の操作手順

3.3.1 インストール方法

注意
インストールする前にMobileProtectを使用する環境をチェックしてください。MobileProtectが格納されているメディア（例 CD-ROM）内の\環境チェックUTL\MPEnvChk.EXEを実行してください。
（CD-ROMからコピーして使用する場合は、MPEnvChk.EXEとfldrlist.iniを同じフォルダにコピーする必要があります）。問題が見つかった場合は、すべて対処してください。
画面内の「対処方法」をクリックすると、対処方法が表示されます。

(1) **画面内の「対処方法」をクリックすると、対処方法が表示されます。**MobileProtect **が格納されているメディア（例** CD-ROM）**内の** setup.exe **を実行してください。**

「次へ」をクリックしてください。

(2) **『「パスワード認証方式の** MobileProtect」**をインストール』 を選択し、「次へ」をクリックしてください。**

⑶　「MobileProtect 導入前の注意事項」が表示されます。
各項目をクリックすると詳細な説明が表示されますので、必ずお読みの上、チェックを付けてください。
すべての確認が終わりましたら、「閉じる」をクリックしてください。

⑷　すべての項目がチェックされていない場合は、下記のメッセージが表示されます。
インストールを続ける場合は「はい」を、インストールを中止する場合は「いいえ」を、(3)の画面に戻る場合は「キャンセル」をクリックしてください

⑸　「次へ」をクリックしてください。

※アップグレードの場合は(8)へ

⑹　使用許諾契約をすべてお読みいただき、同意する場合は「使用許諾契約の条項に同意します」をクリックしてください。
「使用許諾契約の条項に同意しません」を選択した場合はインストールできません。

(7)　**ユーザ情報を入力します。**
ユーザ名、会社名、プロダクトID、ユーザパスワードを入力します。
（確認のため、ユーザパスワードは2回入力してください。）
すべての入力が終わりましたら、「次へ」をクリックしてください。

※　**ユーザ名、会社名は半角** 40 **文字以内、または全角** 20 **文字以内で入力してください。**
※　**プロダクト** ID **はユーザ証書に記載されているものを半角文字で入力してください（大文字小文字は区別しません）。**
※　**ユーザパスワードは** 8 **桁以上** 32 **桁以内の半角文字を指定してください（大文字小文字を区別します）。**
※　**ユーザパスワードとは** Windows **ログオン時に必要なパスワードです（**Windows **ログオンパスワードとは異なります）。忘れないようご注意ください。**

(8)　「運用形態の選択」 画面で、運用形態の選択をします。

※　別売の MobileProtect 管理サーバが導入されていない環境では、スタンドアローンモードを選択してください。MobileProtect 管理サーバが導入されている環境では、MobileProtect 管理者に問い合わせて「運用形態」を選択してください。

※　管理者によって運用形態が設定されている場合は、この画面は表示されません。

※　スタンドアローンモードを選択した場合は(10)へ。

⑼ ≪ネットワークモード≫を選択した場合、「クライアント認証」画面が表示されるので、クライアントID、MobileProtect サーバの URL を入力して、「次へ」をクリックしてください。

※ スタンドアローンモードの場合、この画面は表示されません。
※ 管理者によって運用形態が設定されている場合は、この画面は表示されません。

※ 認証に失敗をした場合は、クライアント名、クライアント ID、MobileProtect サーバの URL を確認後、管理者に問い合わせてください。

※ 管理者がクライアント登録をしていない場合は認証されません。

(10) **インストール先のフォルダ選択画面で** MobileProtect **のインストールフォルダを選択します。通常はそのまま「次へ」をクリックしてください。**
「次へ」をクリックすると、セットアップを開始します。

(11) **「インストール」をクリックしてインストールを開始してください。**

⑿ **インストールが完了すると下記の画面が表示されます。**

「完了」をクリックしてください。

⒀ MobileProtect **を使用可能にするためには、パソコンを再起動する必要があります。**
他のプログラムを実行中の場合は、終了させてください。
「OK」**をクリックすると、パソコンが再起動します。**

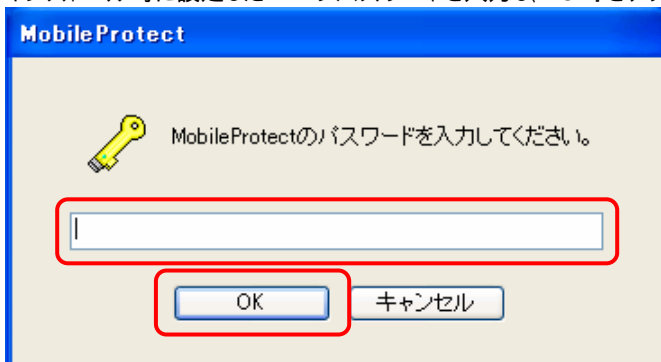
3.3.2. 暗号化設定

3.3.2.1. Windows にログオン

⑴ **再起動後に、通常のログオン画面が表示されます。**

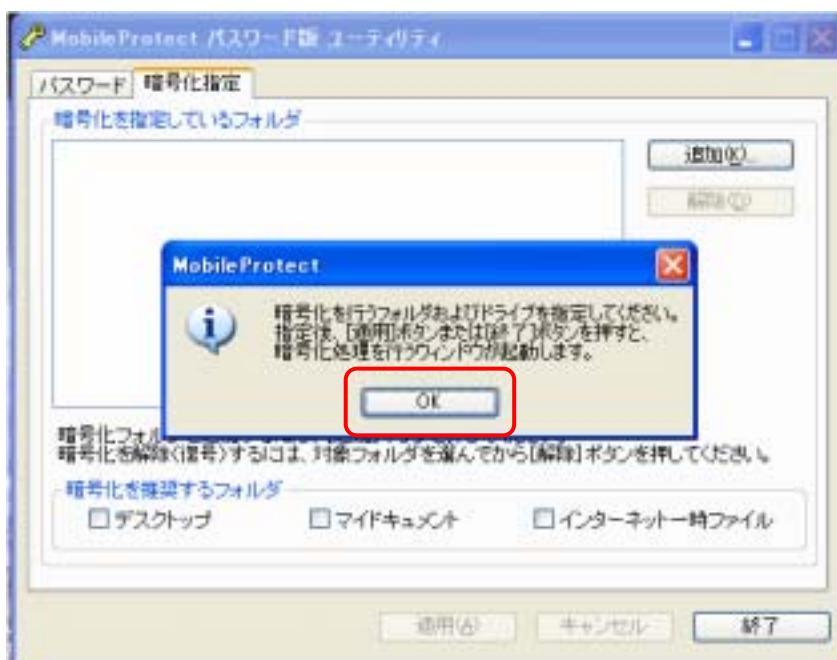
※ **画面イメージは Windows XP Professional のものです。**
※ **Windows の設定によっては、「Windows へようこそ」画面は表示されません。**

Ctrl＋Alt＋Del **キーを押してください。**

⑵ **ユーザパスワード入力画面が表示されます。**
インストール時に設定したユーザパスワードを入力し、「OK」をクリックしてください

※ **ユーザパスワードを 5 回誤って入力すると、「OK」がクリックできなくなります。その場合は「シャットダウン」をクリックして一旦シャットダウンした後、しばらくしてから再度パソコンを起動してください。（すぐにパソコンを起動しても一定時間パスワードの入力はできません。）**

⑶　「Windows へログオン」画面が表示され、ユーザ名と Windows ログオンパスワードを入力するとログオンすることができます。

3.3.2.2.　暗号化設定

⑴　初回起動時、Windows にログオンすると、自動で MobileProtect ユーティリティが起動します。暗号化処理に関する説明が表示されます。
必ずお読みの上、「OK」をクリックしてください。

⑵　「暗号化指定」タブが、表示されています。
「追加」をクリックしてください

※　以下のフォルダを暗号化する場合は、「暗号化を推奨するフォルダ」内のチェックボックスにチェックを入れてください。
・デスクトップ　　・マイドキュメント　　・インターネット一時ファイル

※　デスクトップを暗号化指定すると、デスクトップのアイコンが表示されなくなる場合がありますが、暗号化処理が終了すると　元に戻ります。また、アイコンの並びが変更される場合がありますが、その場合は手動で並び替えてください。

MobileProtect 管理サーバが導入されている環境で、MobileProtect 管理者によって暗号化するドライブやフォルダがあらかじめ設定されている場合は、そのドライブやフォルダが「暗号化を指定しているフォルダ」に表示されています。

他に暗号化設定するドライブやフォルダがない場合は、(4)へ。

⑶　**暗号化したいフォルダを選択し、「OK」をクリックしてください。**

⑷　**「暗号化を指定しているフォルダ」に選択したフォルダが追加されます。**
複数のフォルダを指定したい場合は、⑵から⑶を繰り返してください

※　**すでに暗号化したドライブやフォルダがある場合、そのドライブやフォルダ名も表示されていますが、「解除」すると、復号されるためご注意ください。**

※　**暗号化を実行する前に、常駐プログラムを含むすべてのアプリケーションを終了させてください。**

※　**アプリケーションが使用しているファイルは、暗号化できない場合があります。**
「適用」をクリックすると、暗号化処理が終了するまで暗号化指定しているフォルダにはアクセスできなくなります。（「一時停止」をクリックしても同様です）

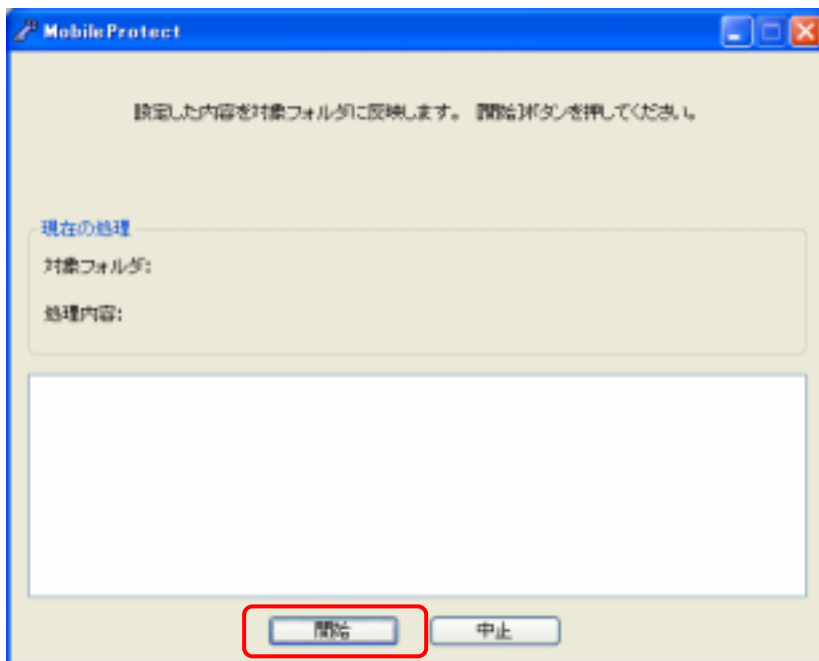
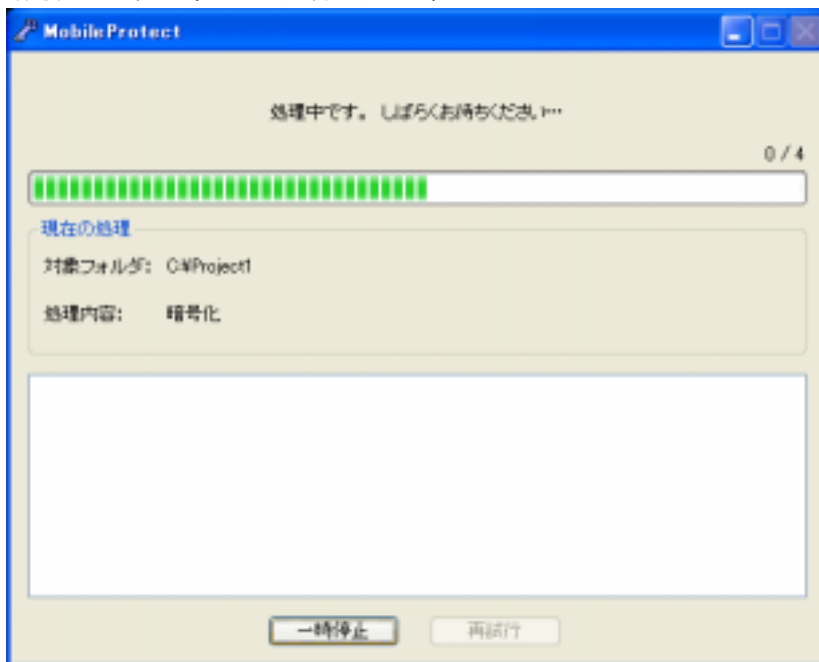
全て指定し終わったら「適用」をクリックしてください。

※ ここで「終了」をクリックすると、指定したフォルダの暗号化を実行後に、MobileProtect ユーティリティが終了します。
再度、MobileProtect ユーティリティを起動する場合は「第4章　ユーティリティの起動及び、オンラインマニュアルの参照方法」を参照してください。

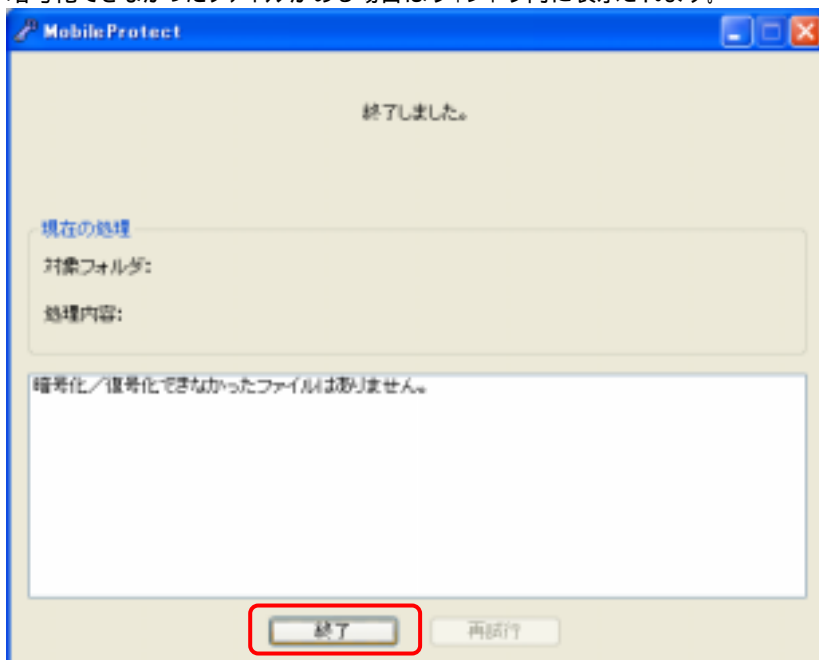
(5) 暗号化処理に関する注意事項が表示されます。必ずお読みの上、「はい」をクリックしてください。

※ 暗号化を実行する前に、常駐プログラムを含むすべてのアプリケーションを終了させてください。アプリケーションが使用しているファイルは、暗号化できない場合があります。

(6) ごみ箱の暗号化に関する注意事項が表示されます。
必ずお読みの上、「OK」をクリックしてください。

(7) 「開始」をクリックすると、暗号化処理が始まります。

⑻　暗号化処理中です。しばらくお待ちください。

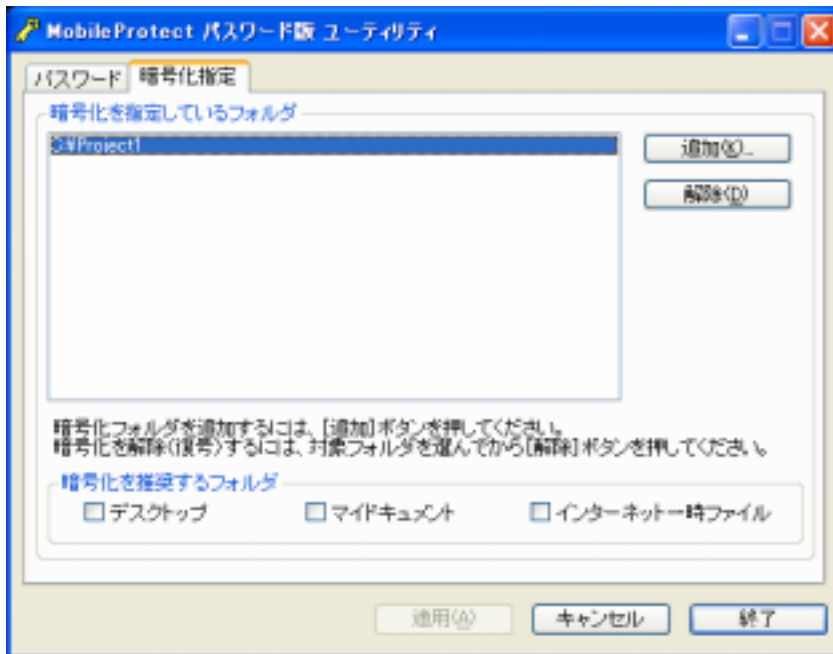
※　暗号化するフォルダ内のファイル数が多い場合、暗号化に時間がかかる場合があります。

⑼　暗号化処理が終了しました。
暗号化できなかったファイルがある場合はウィンドウ内に表示されます。

※　暗号化できなかったファイルがあった場合は、起動しているアプリケーションがあれば終了し、「再試行」をクリックしてください。
すべての起動中のアプリケーションを終了して「再試行」をクリックしても暗号化できなかったファイルがある場合、そのファイルはオペレーティングシステムのサービス等で優先的に使用されるため、暗号化できません。
これらのファイルは MobileProtect 内で暗号化できなかったファイルとして登録されているため、暗号化対象フォルダ内にあっても、問題はありません。

「終了」をクリックしてください。

※　暗号化対象外ファイルについては、暗号化できなかったファイルの一覧には表示されません。また、暗号化対象フォルダ内の全てのファイルが暗号化対象外ファイルであった場合は、「処理したファイルはありませんでした」と表示されます。

※　暗号化対象外ファイルについては、MobileProtect オンラインマニュアル「4-4　暗号化指定タブ」を参照してください。

(10)　暗号化を指定しているフォルダ」に暗号化されたフォルダが表示されます。
これで暗号化の作業は終了です。

第4章 ユーティリティの起動及び、オンラインマニュアルの参照方法

● MobileProtect のユーティリティを起動するには

スタートメニューから、[すべてのプログラム] ― [MobileProtect] ― [MobileProtect ユーティリティ] をクリックしてください。

● MobileProtect のオンラインマニュアルを参照するには

スタートメニューから、[すべてのプログラム] ― [MobileProtect] ― [MobileProtect オンラインマニュアル] をクリックしてください。

第5章 トラブルシューティング

インストール時に 「1607：InstallShield Scripting Runtime をインストールできません。」というメッセージが表示され、インストールできない。

このエラーは、InstallShield が次のような原因で正常に動作していないときに表示されます。

(1) 管理者権限の無いユーザでログオンしている。
- インストールする際のユーザ権限は、コンピュータの管理者（アドミニストレータ権限）で行ってください。

(2) IDriver.exe が正しく登録されていない。
- Windows のコマンドプロンプトから以下のコマンドを実行して、IDriver.exe を登録しなおしてください。
  ¥ProgramFiles¥CommonFiles¥InstallShield¥Driver¥7¥Intel32¥IDriver.exe/REGSERVER （注1）

  ※ Windows が C ドライブにインストールされている場合の例です。それ以外のドライブにインストールされている場合には、該当するドライブ文字に置き換えてください。
  ※ （注1）下線部はお使いの環境によって異なる場合があります。

(3) 同時に複数のインストーラが起動している。
- 誤って Setup.exe を複数実行してしまった場合、一旦全てのインストーラを終了してから、再度インストールを行ってください。

(4) Windows インストーラ(msiexec.exe)が正しく登録されていない。
- 任意の場所（デスクトップ等）に[新規作成]でテキストファイルを作成し、ファイルの拡張子を.txt から.msi に変更してください。
  アイコンがインストーラのアイコンに変わるか確認します。
  アイコンがインストーラのアイコンに変わらない場合には、コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行してください。
  C:¥Windows¥System32¥msiexec.exe /REGSERVER

  ※ WindowsXP が C ドライブにインストールされている場合の例です。
  それ以外のドライブにインストールされている場合には、該当するドライブ文字に置き換えてください。
  また、OS が異なる場合はシステムフォルダ名を置き換えてください。

(5) Windows XP で、「SUBST」コマンドで作成した仮想ドライブからインストールを実行している。
SUBST コマンドによる仮想ドライブを解除してください。

※その他についてはオンラインマニュアルのトラブルシューティングをご参照ください。